

7月18日 総務委員会報告

### 帯広市水防計画について

西日本の豪雨災害では200人を超える死者数が報告され、農水産関係でも480億円以上の被害状況となりました。

帯広市の河川の状況は一昨年の台風による流木の撤去が完了しておらず、「バックウォーター現象」といわれる、流木等が川の流れをせき止め、被害を拡大する現象が起きる可能性があります。

近年の多発する災害の状況から防災意識の向上と、防災体制の強化の必要性はますます高まります。

水害時の早めの段階的周知と避難体制の強化を求めて、以下質問をしました。



Q) 平成28年の台風災害による河川被害の復旧状況、流木等の処理の状況について伺います

A) 崩落した明星橋は、復旧工事を概ね終えて、間もなく供用開始できる。

また芝生などに大きな被害の出た河川敷運動公園についても、芝の育成等をみながら、当初の計画どおり、供用開始に向けて作業をすすめている。

流木に関しては、河川を管理する国や道が、危険性の高いもの、生活に支障の大きいものから順に対応を進めているが、量が膨大なことから時間を要する。

Q) 避難勧告等の発令基準においても、流木の有無などを考慮する必要があるのでは無いか

A) 、河川水位の状況を注視しながら判断することを基本としつつ、流木の有無や上流域における雨量などの気象状況、樋門の開閉状況、危険が予想される前兆現象などを勘案し判断してきたが、今後も情報を収集し適切な判断を取れるよう努めてまいりたい。

Q) 台風災害の検証では、緊急情報の市民への周知方法が課題とされていました。

台風災害の検証を踏まえた帯広市の市民周知の考え方について伺います。

- A) テレビ、ラジオ、インターネット、緊急速報メール、広報車など、できるだけ多くの手段を通じて情報を発信することとしている。  
紙や防災出前講座などを通じて市民の皆さんが自ら情報収集に努め、その情報を周囲と共有していただくことが重要であり周知、啓発に努めているところ。
- Q) 西日本豪雨では、ハザードマップで示された危険箇所です実際に被害が発生しており、ハザードマップの重要性が再認識されて居ますが市民の認識についての考えは
- A) 『おびひろ防災ガイド』を、平成28年10月に市内全戸に配布したところであるが、浸水エリアなどについての市民の理解は、まだまだ十分とは言えないと認識している。
- Q) ハザードマップの中でも 水害の危険性のある福祉施設、病院などがありますが、要援護者の避難計画の策定状況及び避難訓練の実施状況等について伺います。
- A) 平成29年6月の水防法等の改正により、浸水が想定される要配慮者利用施設について『避難確保計画の作成』及び『訓練の実施』が義務化された。  
今年4月に、市の防災計画で定めている対象となる施設に対して調査を実施し、対象となる160施設に対して、114施設で『避難確保計画』が作成されている状況。

#### おびひろ避難支援プランについて

現在市内世帯状況は、約8万世帯のうち1万世帯が高齢者世帯、1万2千世帯が単身高齢者世帯となっています。更に在宅介護・医療が推進され、家庭の中で要介護者を抱える世帯が数多くあります。

おびひろ市は災害時に避難支援を要請した方の「災害時要援護者登録台帳」を作成しており、登録者は2,442名となっています。しかし実際に支援が届くのは『個別計画作成協議会』の設置されている町内会にお住まいの市民に限定されており、個別計画が完了している割合は11.5%（280名）となっています。

状況としては、協議会が組織されているのは33連合町内会のうち7地域、769単位町内会のうち11町内会となっています。

残りの約2,200名に対する考え方と今後の対応を質問し、町内会への協議会設置要請と共に、地域包括などとも連携したもれの無い体制強化を要望しました。

また、指定避難所の自主防災倉庫は屋外に設置されており、豪雨・豪雪の際は利用できなくなる可能性が高いため、指定避難所内に設置するよう求めました。



### 帯広市の考え

- 実際に支援を希望している2,442名のうち、個別計画の作成まで至っていない約2,200名については、各地域における要援護者の人数などを町内会にお伝えするなど、個別計画作成協議会の設立のきっかけとなるよう、情報発信の在り方などに工夫をしていきたい。
- 市では要援護者の台帳を整備しており、緊急を要する場合には、この台帳をもとに個別に電話連絡等を行うことを基本としているが、より効率的な連絡方法については、今後も引き続き検討したい。
- 浸水地域にある自主防災倉庫については水害時等に使いにくくなることも考えられるため、今後、施設の管理者とも協議しながら、より良い方法を検討していきたい。